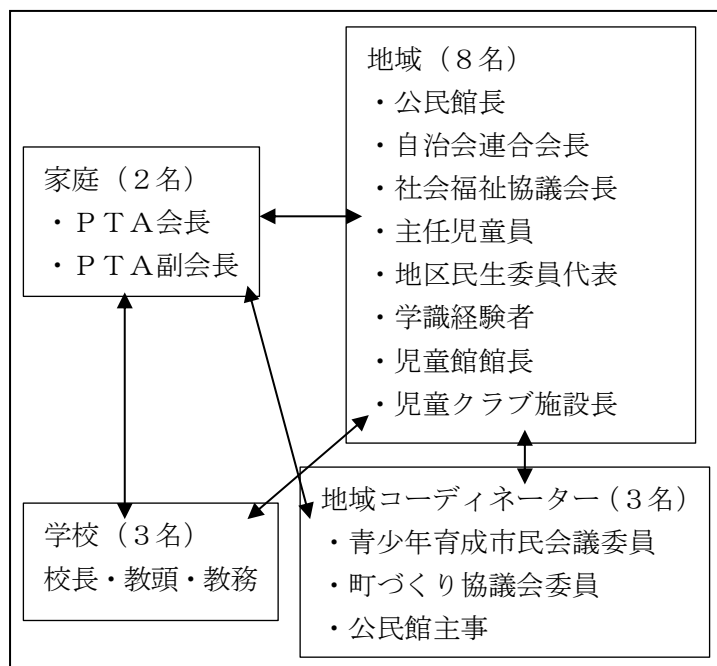


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 開催回数 年3回
- 開催日程
 - 第1回…6月18日(火)
 - 第2回…11月6日(水)
 - 第3回…2月28日(金)
- 協議内容
 - 第1回…スクールプラン、地域の人材活用や体験活動、中学校区の教育等
 - 第2回…これまでの教育実践、家・地・学の連携&行事に関する事等
 - 第3回…今年度の教育評価、来年度に向けた課題と展望等

(3) 協議会における成果と課題

今年度「体験活動を重視した『心の教育』を主たる取組として実践活動を行ってきたが、各学年における講師の選定及び運営において、協議会の方々には多大なるご協力をいただいた。児童達にとって、湊地区を愛し、良く知る方から直接お話を聞くことは大変意義があった。来年度の課題として、休日における地域行事に教師を含めてどのように参画していくかが課題といえる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童がテーマに基づいた体験活動を行ったり、地域の人と関わったりしながら、地域や日本文化について理解を深め、ふるさと「湊」に誇りや愛着をもつ児童を育成する。

(2) 活動の実際

例) 「お仕事探検隊」(5・6学年)

5・6年生は、キャリア教育の一環として、市商工会議所の協力を得て計10名の方をお招きし「職業」について考える機会を得た。働くことの意義や職業観について学ぶと共に、現在学校で学んでいることが、将来社会で働くことにどうつながっていくかを考えることができた。そして、この学習を通して感じたことや自分の将来の夢について各自レポートにまとめ発表した。



<お仕事探検隊の様子>

(3) 地域コーディネーターの活動概要

各学年の学習の中で、地域と関わりのあるもの(自然、歴史、人物、生活等)について話し合い行事をする上での助言や調整、講師やボランティアの交渉や手配を行った。

(4) 特に工夫した事項

「将来の夢、職業調べ」において、2年計画で見通しのある進路学習を行うため、今年度は、5年生も交えて高学年で活動を行った。結果、意識の相乗効果が生まれるなど大変意義があった。

(5) 成果と課題

地域の人達とのふれあいは、大変教育効果があると感じた。また、体験活動は児童の自己有用感と大きな人間的成長を導くことも実感できた。今後は、働き方改革の流れの中で、休日における地域行事へどのような形で積極的に参画するかについて検証していく必要がある。

